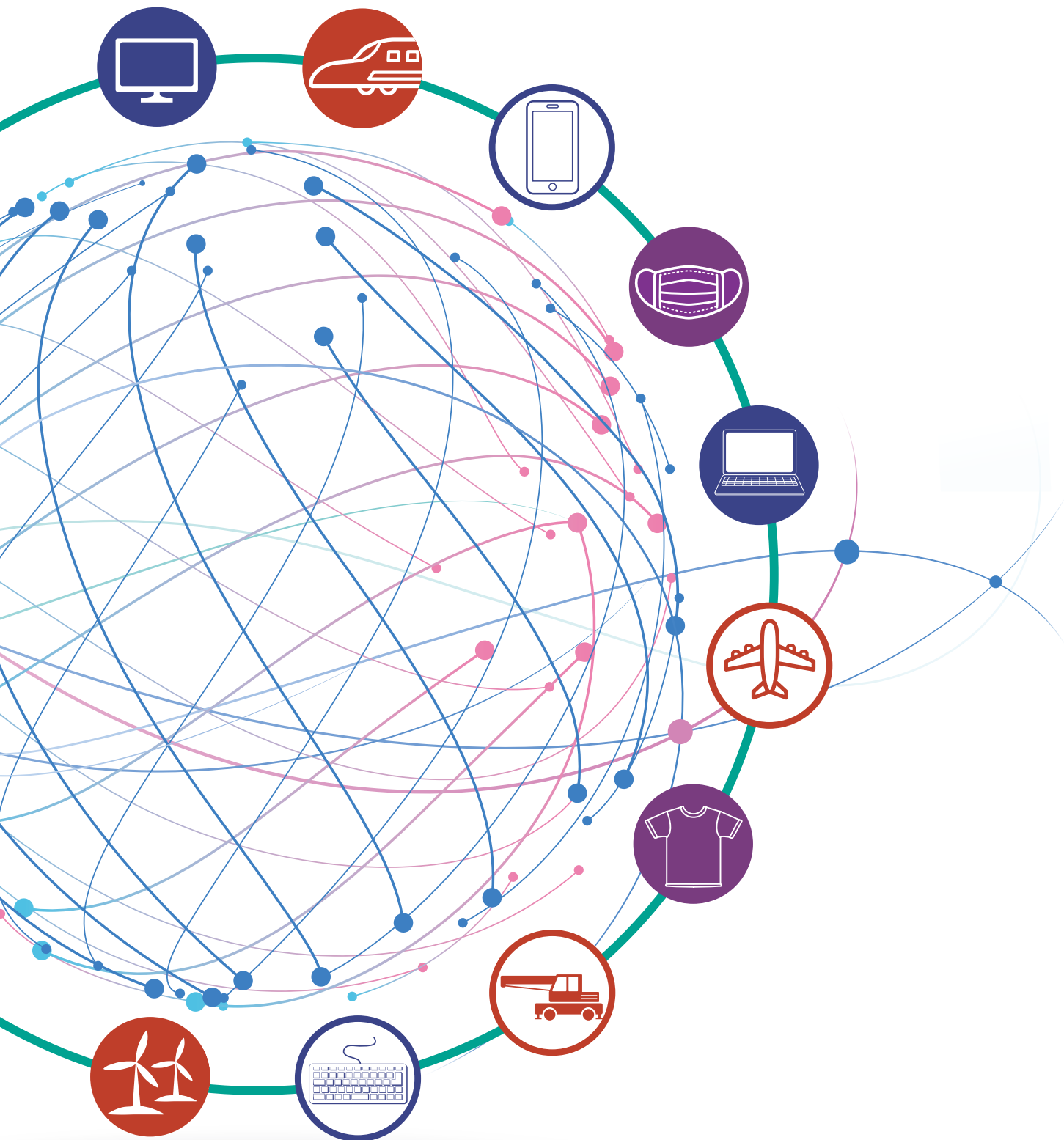


ダイワホールディングス株式会社

第111期 ビジネスレポート

2021年4月1日～2022年3月31日



あたりまえ、を支える



## 需要反動減と供給不足による影響が 拡大する中で、 過去3番目の連結利益を確保しました。

ダイワパワーホールディングス株式会社  
代表取締役社長 西村 幸浩

### 業績について

第111期(2022年3月期)におけるわが国の経済は、回復基調で推移したものの、新たな変異株の発生、長期化している半導体不足、原材料やエネルギーコストの高騰など、先行き不透明な状況が続きました。その様な中、当社グループは、新たに中期経営計画(2022年3月期~2024年3月期)をスタートし、対象期間を「将来にわたる発展を見据えた転換期」と捉えて「次世代成長ドライバーの創出」「リーディングカンパニーとして新たな社会作りへの貢献」「経営基盤変革」のグループ基本方針のもと、企業価値のさらなる向上に努めました。

第111期の概況を、セグメント別にご報告いたします。ITインフラ流通事業における企業・官公庁向けは、クラウド環境の構築やサービス利用の切り替えが進み、ライセンス契約管理システム「iKAZUCHI(雷)」を通じたサブスクリプション製品の契約が増加、また、戦略的な在庫確保および切り替え提案の強化により、PCやモニター販売が前期を上回りました。文教向けは、前期の「GIGAスクール構想」による全国規模の端末出荷の反動が大きく、コンシューマ向けは、テレワーク需要が活発化した前期に比べて販売が減少しました。

繊維事業では合繊・レーヨン部門は、環境負荷の少ないレーヨン素材が堅調に推移した一方で、除菌関連向け商品や不織布の販売が減少しました。産業資材部門は、カートリッジフィルターやゴムスポンジが堅調だったものの、建築シートや合繊帆布等の重布関連商品がコロナ禍の影響を受け、衣料製品部門も国内での消費低迷が業績に響きました。

産業機械事業は、主力の航空機業界は回復が遅れているものの、工作機械部門・自動機械部門ともに前期より受注が増加しました。また、部品交換や改造工事等のサービス売上の強化が図れ、前期を上回る実績を上げました。

以上の結果、グループ全体の連結業績は、過去最高業績となった前期を売上高・利益ともに下回ることとなりました。一方で、ITインフラ流通事業における需要反動減と当期から適用した収益認識基準の影響は、当初より織り込んでいましたが、コロナ禍の長期化に伴うサ

プライチェーンの混乱、半導体不足、原燃料価格の高騰などの影響を受けながらも、過去3番目の利益水準を確保することができました。なお、株主様への配当につきましては、継続的かつ安定的な利益還元を行う基本方針に則り、期末配当を1株当たり30円、中間期の30円と合わせ、年間配当金を60円とさせていただきます。

### 今後の見通しと取り組み

中期経営計画の初年度として第111期は、将来へ向けた組織改革を計画的に推進することができました。それをベースに第112期(2023年3月期)は、次なる成長の原動力を生み出す体制作り注力いたします。業績面では、半導体不足や原燃料価格の高騰が引き続き懸念されるため、中期経営計画に対し、売上高=計画通り、営業利益=減益の見通しです。

各事業の取り組みは、ITインフラ流通事業では、引き続きIT市場に欠かすことのできないPC・タブレット・スマートフォン等のエンドポイントのビジネスにこだわり、市場シェアを意識した営業活動を展開します。さらに技術支援体制の強化や新しいサービスの開発により、顧客のITインフラ基盤からエンドユーザーの利用端末まで複合的に提案できる体制の構築を目指します。繊維事業は、ESG(環境・社会・ガバナンス)経営やSDGs(持続可能な開発目標)を事業運営の基本におき、さらなる環境配慮型製品の開発・提供で、安心・安全な社会の実現を目指した事業展開を進めます。産業機械事業は、脱炭素社会に応えるエネルギー効率の向上や風力発電向けの製品開発と提供、顧客のESGへの取り組みを後押しする省人化や脱プラスチックへ向けた提案に注力いたします。

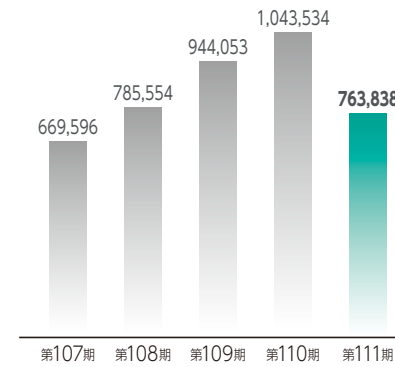
当社グループは、現在、中期経営計画のもと、持続的成長へ向けたビジネスモデルの変革への挑戦、ESG視点での事業を通じた社会課題解決への貢献、未来を創る人財価値の最大化を掲げ、様々な改革に取り組んでおります。

株主の皆様には引き続き倍旧のご支援とご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

## 連結業績ハイライト

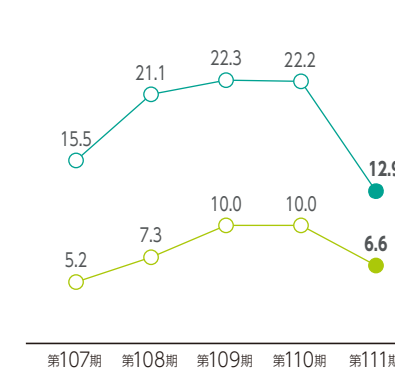
売上高 (百万円)

**7,638億38百万円**  
※収益認識に関する会計基準の適用  
影響額：△648億67百万円



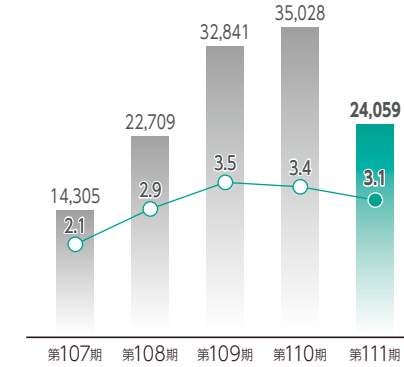
ROE (自己資本利益率) (%)  
ROA (総資産利益率) (%)

**ROE 12.9%**



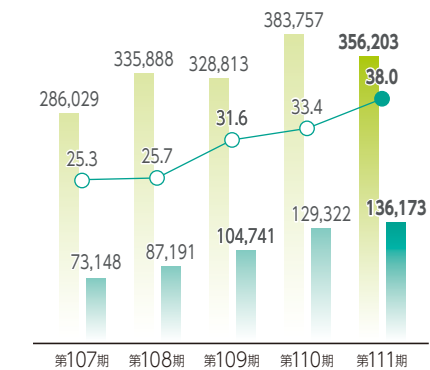
営業利益 (百万円) 営業利益率 (%)

**営業利益 240億59百万円**  
前期比 31.3% 減



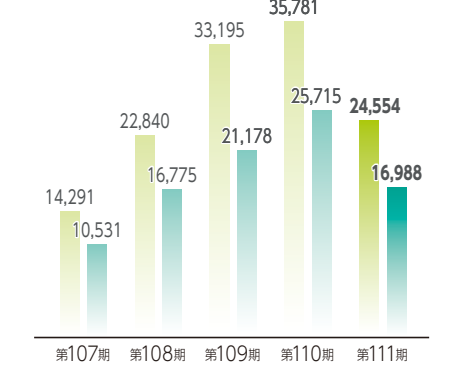
総資産 純資産 (百万円)  
自己資本比率 (%)

**自己資本比率 38.0%**



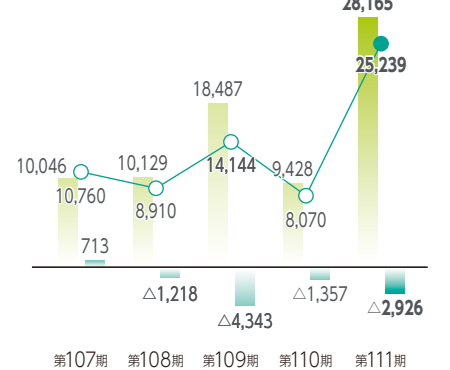
経常利益 (百万円)  
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)

**親会社株主に帰属する  
当期純利益 169億88百万円**  
前期比 33.9% 減



営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)  
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)  
フリー・キャッシュ・フロー (百万円)

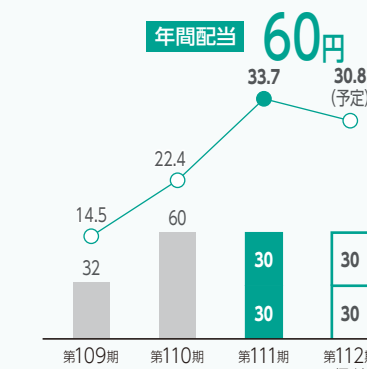
**フリー・キャッシュ・フロー 252億39百万円**



### 株主還元

第111期の配当金は、1株当たり中間配当金30円、期末配当金30円の年間配当金60円となりました。第112期についても、中期経営計画のキャッシュ配分方針に基づき、配当水準を維持する予定です。また自己株式取得についても機動的に実施してまいります。

配当金 (円) 配当性向 (%)



※PER、PBRは2022年3月31日終値に基づいて算出。  
※1株当たり配当金は株式分割(2021年4月1日)を過年度に遡及して表示。

### 自己株式の取得状況

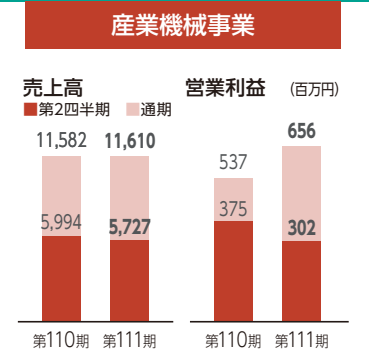
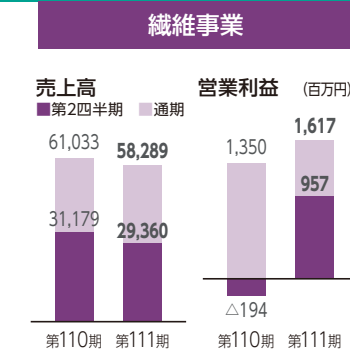
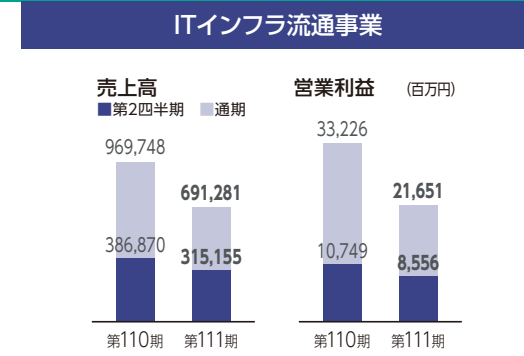
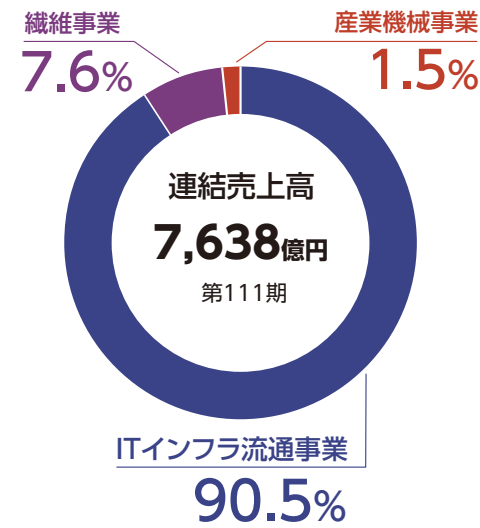
	2022年3月期	2023年3月期 (予定)
自己株式取得	約20億円 (2021/5/14~8/31)	約30億円 (2022/5/13~10/31)
総還元性向	45.4%	46.2%

PER (株価収益率)	PBR (株価純資産倍率)
9.3倍	1.2倍



# 事業別概況

ITインフラ流通事業	ディストリビューション	ダイワボウ情報システム(株)	
	サービス&ソリューション	ディーアイエスサービス&ソリューション(株)	
繊維事業	合織・レーヨン	ダイワボウレーヨン(株)	
	産業資材	大和紡績(株)	
	衣料製品	カンボウプラス(株) ダイワボウアドバンス(株)	
産業機械事業	工作機械	(株)オーエム製作所	
	自動機械	(株)オーエム機械	
	鋳造・加工・組立	オーエム金属工業(株)	



コーポレート向け市場は、クラウド環境の構築やサービス利用への需要獲得に注力することで企業・官公庁向けは回復傾向が見られたものの、文教市場における反動減および半導体不足の影響を受け減収減益となりました。コンシューマ向け市場はテレワーク需要が活発化した前期と比べて、PCや周辺機器の販売が減少しました。

環境負荷の少ないレーヨンは販売が増加したものの、除菌関連需要の反動や事業全般で原燃料高の影響を受けたことで利益面で苦戦しました。

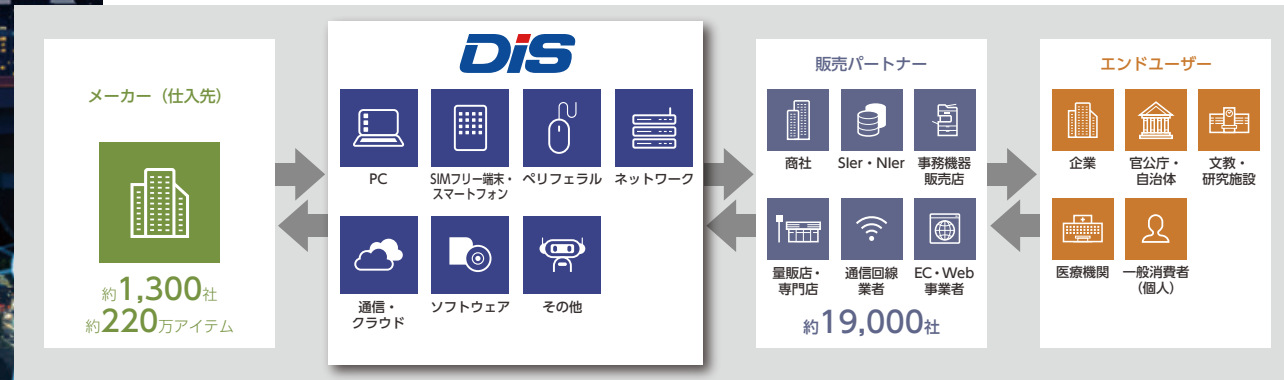
原材料高騰の懸念は継続しておりますが、受注環境は回復傾向にあり、改造・部品交換などのサービス売上も増加しました。

## ITインフラ流通事業

### 国内最大級のディストリビューターとしてIT環境をトータルにサポート

ITインフラ流通事業は、ダイワボウ情報システム(DIS)グループが運営する事業です。DISは独立系マルチベンダーとして、お客様のニーズに合わせて最適なソリューションを提案し、世界中のIT関連商品・サービスを最適な組み合わせでご提供しています。どの地域のお客様にもFace to Faceできめ細やかに対応できるよう、日本国内をカ

バーする営業拠点と物流拠点を展開。全国の販売パートナーを通じて、民間企業や官公庁・自治体、学校、医療機関、一般消費者など、幅広く利用されるIT関連商品をお届けします。時代の変化に即応しながら、万全のサービス&サポートで、多様化・高度化するニーズに応え続けていきます。



#### 事業を通じた社会課題解決への貢献機会

- 全国の営業拠点網によるIT化推進の取り組み
- 教育の情報化に向けた取り組み
- サブスクリプション管理ポータル「iKAZUCHI(雷)」での新たなビジネス共創の場の提供



iKAZUCHI(雷)掲載サービス 88ベンダー/181サービス (2022年3月現在)

「iKAZUCHI(雷)」は、DISが提供するサブスクリプション管理ポータルです。サブスクリプション型(継続課金型)ビジネスは、導入コストを抑えて、最新のサービスを必要な分だけ利用できるため、幅広い分野で普及・拡大が見込まれています。販売パートナーは「iKAZUCHI(雷)」を利用することで、クラウドサービスを中心としたサブスクリプションビジネスにおける注文工数が削減され、年額・月額・従量制などのさまざまな継続型契約や、ユーザー情報の一元管理が可能になります。

## 繊維事業

### 衣料・生活用品から産業資材まで高付加価値を追求する繊維メーカー

素材としての用途の広がりや循環型社会への対応など、多様な可能性を持つ繊維の事業フィールドで、研究開発に力を入れ、サステナビリティに配慮した素材や機能性・独自性のある素材を生かした高付加価値な商品を生み出しています。衣料品のほか、紙おむつの材料といった生活資材から建設現場の防水シートなど産業資材まで取り扱い分野は幅広く、その提供形態も原綿や不織布、最終製品まで多岐にわたります。

#### 事業を通じた社会課題解決への貢献機会

- 生分解性繊維など環境負荷低減に貢献する商品開発
- カセイソーダ不使用の染色加工技術など水使用量の削減、環境負荷低減のプロセス開発



## 産業機械事業

### あらゆる業界の製造機械に変革をもたらす「匠の精鋭技術集団」

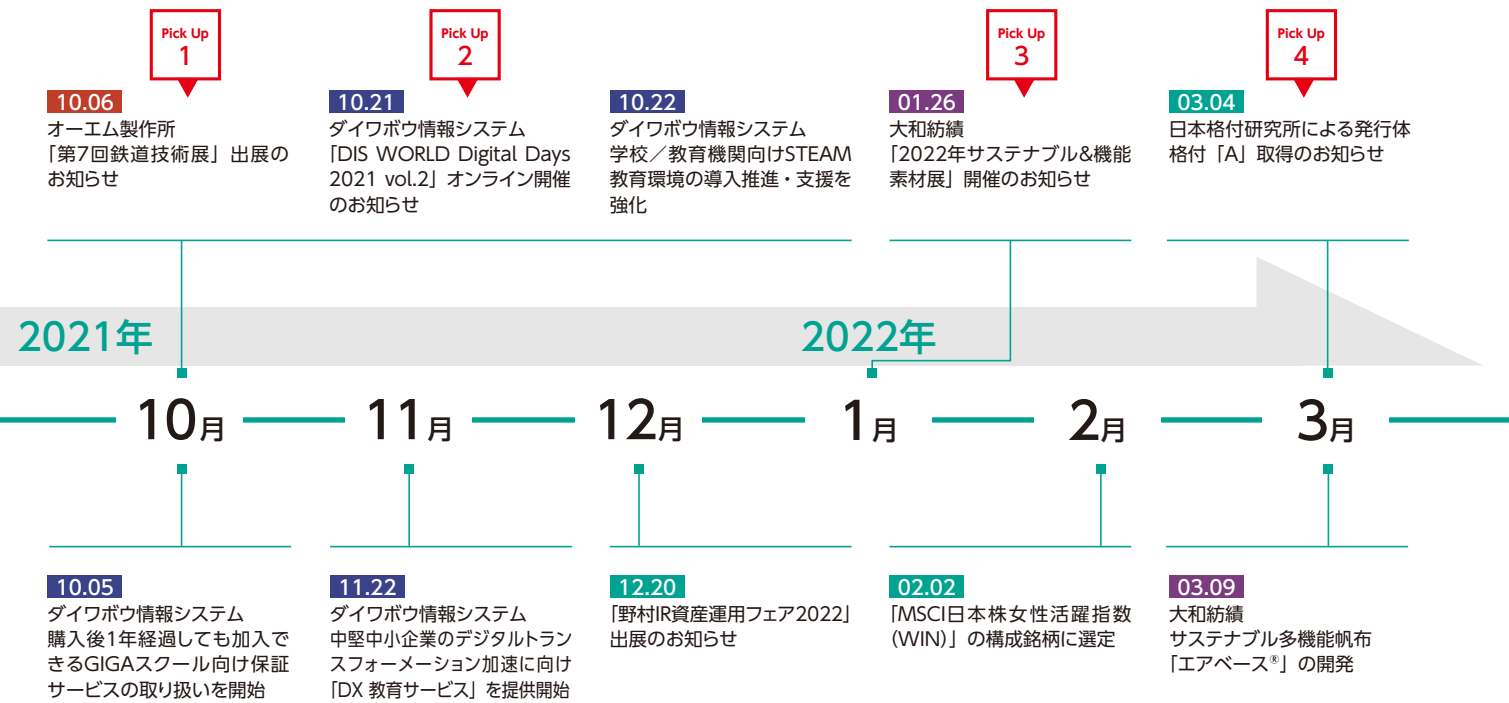
航空・宇宙分野をはじめ、あらゆる産業のマザーマシンとして活躍し、長年にわたる技術・技能の伝承により厚い信頼を得ている「立旋盤」や、鉄道の安全と乗り心地を支える「車輪旋盤」などの工作機械と、食品や製薬などの幅広い業界で活躍する自動包装機を主に製造販売しています。時代を先取りし、独創性を持って、高い技術力が生み出す高精度な機械を提供することで、多様化するユーザーニーズに確実に応えていきます。

#### 事業を通じた社会課題解決への貢献機会

- 航空機エンジンやエネルギー分野向け、鉄道車輪メンテナンス用の工作機械などを通じてモノづくりの技術と品質を提供







**Pick Up 1** 「第7回鉄道技術展」にオーエム製作所が出展

オーエム製作所は、2021年11月24日～26日の3日間、「第7回鉄道技術展」に出展し、鉄道車両の保守メンテナンス設備を紹介しました。輪軸の2軸同時加工が可能なタンデム型床下車輪旋盤について、削正時間短縮の効果をPRし、好評を得ました。



オーエム製作所では床下車輪旋盤の国内納入実績で90%以上、新幹線向けでは100%の納入実績です。国内では一体車輪中ぐり盤や床上車輪旋盤などの納入実績も伸びており、鉄道車両基地で使用される旋盤設備の総合メーカーとしてこれからもブランド力を高めてまいります。

**Pick Up 3** 「2022年サステナブル&機能素材展」を開催

大和紡績は、2022年2月16日～18日の3日間、東京本社にて「2022年サステナブル&機能素材展」を開催し、「アレルキャッチャー」、「デューロンxc、xt」など高機能素材を用いた製品を幅広く提案いたしました。近年スポーツ分野では、レギュラーPETからリサイクルPETへの置換などサステナブル素材への要望が高まっており、この傾向はカジュアル衣料・寝装分野でも同様に広がりを見せております。この様な中で本展示会では、高機能素材に加え、「ツインレット」、「シトラスガード」など機能+サステナブル素材を用いた製品を提案いたしました。これからも、さらに進化した高機能素材・サステナブル素材の提案を推進してまいります。



**Pick Up 2** 「DIS WORLD Digital Days 2021 vol.2」を開催

ダイワボウ情報システムは、2021年11月22日および24日～26日の4日間、オンラインでは2回目となる「DIS WORLD Digital Days 2021 vol.2」を開催しました。約200社の協賛企業とともに「DX-Ready(デジタル変革に向けての準備)」をテーマとして、最新情報の紹介やオンラインセミナーを実施しました。4日間で合計27,694人のお客様にご来場いただくなど、大盛況なイベントとなりました。これからも、ITを駆使したコミュニケーションと地域密着営業により、IT需要の深耕と日本全国のDX化に向けて活動を推進してまいります。



**Pick Up 4** 日本格付研究所による発行体格付「A」を取得

2022年3月1日、当社は、株式会社日本格付研究所(JCR)より新規に格付を取得しました。当社の事業内容および財務状況について第三者機関からの客観的な評価を得ることで、対外的な信用力の向上と今後の事業基盤の拡大に対応した資金調達多様化や安定化を図ることを目的としております。これからも、収益力の向上と財務基盤の改善に取り組んでまいります。

**■格付対象**  
発行体：ダイワボウホールディングス株式会社  
【新規】対象：長期発行体格付 格付：A 見通し：安定的

ダイワボウグループのサステナビリティー脱炭素社会の実現に向けて

当社グループは地球温暖化・気候変動を重要な経営課題の一つとして認識し、脱炭素社会の実現に向けてグループ全体のCO<sub>2</sub>削減目標を策定しました。また、TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)提言への賛同表明およびTCFDコンソーシアムへの加盟により、提言に基づく積極的な情報開示を推し進め、地球環境への負荷を低減し、持続的な発展に貢献すべく事業活動を推進してまいります。

**グループCO<sub>2</sub>排出総量削減目標**  
(Scope1・Scope2 合計)

**2030年までに30%削減**  
(2013年度比)

Scope1: 工場など製造段階での燃料燃焼による直接排出  
Scope2: 他社から供給された電気の使用による間接排出

**気候関連財務情報開示**

- TCFD提言への賛同を表明
- TCFDコンソーシアムへの加盟

第111期の主な取り組み

**マテリアリティ策定**

**Daiwabo Sustainable Action2021**

- 5分類17項目を策定し活動項目を紐づけ

**取締役会の独立性と多様性の向上**

- 独立社外取締役比率 **57%**
- 女性取締役比率 **29%**

**経済産業省が定める「DX認定」を取得**

**プライム市場選択**

**ESGデータ開示項目の拡充**

**ESGに関する基本的な考え方の公表**

- 人権、ダイバーシティ等

**気候変動関連情報の開示に向けた取り組み**

- TCFD提言に基づくシナリオ分析等

継続的なESG活動

**グループ連携強化**

ESG推進委員会/ESG推進会議

- 活動進捗の定期的な確認・共有
- マテリアリティの評価・見直し等

**情報発信の充実**

サステナビリティサイト

<https://www.daiwabo-holdings.com/ja/sustainability.html>

- ESG推進体制
- マテリアリティ策定プロセス
- ESGデータ等

ESG関連ニュース 「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」の構成銘柄に選定

当社は、環境、社会、ガバナンス(ESG)投資のために開発された「MSCI日本株女性活躍指数(WIN)」の構成銘柄に選定されました。こちらは、米MSCI社によるESG指数の一つで、時価総額上位700銘柄(MSCIジャパンIMIトップ700指数)の中から、性別多様性に関する開示情報をもとに構築されるものです。同指数は、企業のESGの取り組みを注視する世界の投資家から重要な判断基準として活用されており、日本の公的年金積立金管理・運用機関であるGPIF(年金積立金管理運用独立行政法人)も、ESG投資の運用にあたっての投資判断基準の一つとして採用しています。

**2022 CONSTITUENT MSCI日本株女性活躍指数(WIN)**

当社グループは、グループ企業行動憲章に掲げる「人権と多様性の尊重」に基づき、共に働くすべての人々の多様性を尊重し受け入れ、社会と協働することで真に価値ある未来を生み出す組織を目指すとともに、ESGの取り組みを一層深化させてまいります。

## 会社概要

(2022年3月31日現在)

社名 ダイワボウホールディングス株式会社  
 資本金 21,696,744,900円  
 創立日 1941年4月1日  
 事業拠点 本社  
 大阪市中央区久太郎町3丁目6番8号  
 御堂筋ダイビル (〒541-0056)  
 TEL.06-6281-2325  
 連結従業員数 5,671名

## 株式の状況

(2022年3月31日現在)

発行可能株式総数	発行済株式の総数	株主数
200,000,000株	96,356,460株	10,856名

(注) 発行済株式の総数のうち1,253,110株を自己株式として保有しております。

個人・その他	信託銀行	その他の法人	外国法人等
10,360名 16,312,611株	13名 22,069,395株	175名 3,406,900株	225名 36,520,328株

銀行	生命保険会社	損害保険会社	金融商品取引業者	その他金融機関
15名 8,618,645株	13名 2,936,085株	3名 1,279,540株	47名 4,611,346株	5名 601,610株

## 役員

(2022年6月29日現在)

### 取締役



### 監査役



## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日～翌年3月31日  
 基準日 毎年3月31日  
 定時株主総会 毎年6月  
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
 特別口座の口座管理機関  
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部  
 〒541-8502  
 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
 ☎ 0120-094-777 (通話料無料)  
 上場証券取引所 東京証券取引所プライム市場  
 公告の方法 電子公告により行う  
 公告掲載URL  
<https://www.daiwabo-holdings.com/>  
 (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

### ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行本支店でもお取次ぎいたします。

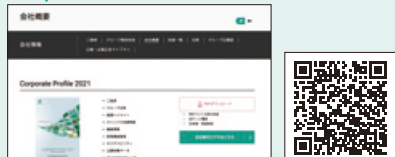
### 会社案内ビデオ



### グループ広報誌 DAIWABO HOLDINGS Digest



### Corporate Profile 2021



各詳細につきましては、当社ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.daiwabo-holdings.com/>

### IR・投資家情報

個人株主・投資家の皆様へ  
 中期経営計画/業績・財務/IRライブラリ/株式情報/IRカレンダー  
 よくあるご質問/電子公告

### サステナビリティ

トップメッセージ/ESG推進体制  
 環境活動/社会活動/ガバナンス/マテリアリティ (重要課題)  
 ISO取得状況/ESGデータ

### 事業紹介

ITインフラ流通事業/繊維事業/産業機械事業

### 会社情報

ご挨拶/グループ理念体系/会社概要/役員一覧/沿革  
 グループ広報誌/広報・企業広告ライブラリ



ダイワボウホールディングス株式会社